

熊本地域医療センターだより

通算181号

院長 杉田裕樹

令和2年(2020年) 6月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2020 6 月号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

新型コロナ時代の内視鏡診療……………	P2
市民公開講座3	
大腸がんの腹腔鏡手術……………	P3
新任挨拶 佐々木大晃……………	P3
竹野 洋司……………	P4
ありがとう！ジュシー熊本果実連……	P4

「友達の輪～Relayトーク 第5弾」 熊本地域医療センターとの関わり

すどう・きたの医院 北野 伸浩



医師会員の皆さんこんにちは。私は、中央区新大江で内科と外科(少々)の診療所をやっています。義父であります須藤多加志(医師会の文化祭等で手品をしますのでご存知の先生もいらっしゃるかと思います)が、やっていた須藤医院をリニューアルして、すどう・きたの医院として2000年12月に開院しました。早いもので今年で20年目に入りました。

さて、紹介の前田将臣先生とは、旧熊大第2外科の同期です。私は、熊本大学の出身ではありませんでしたが、分け隔てなく接してくれ、今、私があるのも彼のおかげと言っても過言では有りません。その前田先生からの依頼でしたので喜んで(文才がないので本当は渋々)お引き受けしました。

本題の地域医療センターとの関わりですが、出勤協力医で月に1回程度休日の午前中に外科の診療をさせていただいています。最近は近視と老眼による調整がうまく行かず処置の際の傷が見えづらくなり、後でクレーム等でご迷惑をおかけしていないか心配しています。次に患者紹介についてですが、今回のことで想い返してみますと、各科の先生方には大変お世話になっていたことを改めて再認識いたしました。特に外科と小児科の先生方に

は、公私ともお世話になっておりました。外科では、当院リニューアルしてすぐの頃、研修医の時から存じ上げている第2外科の先輩である元院長の八木泰志先生、有田哲正先生がいらっしゃったことも有り、お願いしやすく手術症例をご紹介することが多かったと思います。最近は患者さんの希望に沿うことも多くなり、近くにくまもと森都総合病院ができたことも有りご無礼することが多くなりましたが、義母は元院長の廣田昌彦先生に急性虫垂炎の周囲膿瘍で手術をしていただき、現在も臍のう胞で定期的に経過を診ていただいております。小児科は、義父が保育園の園医をしていたことと、リニューアル当時は周囲に小児科の診療所がなかったため小児の患者さんが受診されることが多く、勤務医のところに外来で小児の患者さんを診ることが殆どなかったため、ちょっと困ったりよくわからない症例をちょこちょこ紹介させていただいていました。「この程度の症例で」とご迷惑だったと思いますが、いつも快く引き受けていただき安心したとともに大変勉強になりました。又、次女が3歳の時に1型糖尿病を発症した際は、最初に後藤善隆先生、柳井雅明先生に診断をつけていただき、ケトアシドーシス状態でしたので緊急で大学病院にご紹介していただきました。おかげさまで、今年から高校1年生になり元気に過ごしております。他科では緩和ケアの安部英治先生に義叔父が膵臓がんでお世話になり、各科の先生方には家族共々大変お世話になっており、感謝の念に堪えません。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

今後も各科の先生方にはご迷惑をおかけすることと思いますが、よろしく願い申し上げます。1日も早く新しい病院が建ち更に発展することを祈念しております。

今回の「友達の輪」は、玉名高校の同級生で糖尿病の患者さんをいつも相談している武藤眼科・大久保内科の大久保康生先生にお願いしています。

新型コロナ時代の内視鏡診療

内視鏡室 田村 文雄



2019年末から世界中に広まった新型コロナウイルス感染症は、我々の生活を一変させるほどの猛威を振るっています。飛行機が飛ばない、市民がレストランで飲食も出来ない、スポーツジムで身体を鍛えることも、熱が出て病院に行くこともはばかれる世の中になってしまいました。中国から始まったと思われるウイルス感染症ですが、時間とともに徐々に全容が明らかになってまいりました。潜伏期間が数日～2週間とインフルエンザより長く、飛沫感染や接触感染により広がる感染症であり、高齢者や基礎疾患があると死亡率が高くなるなどがわかってきました。

ご存知のように、熊本地域医療センターでも救急患者から感染したと思われる職員が出て、一時診療がストップする事態となり医師会会員の先生方はもとより多くの市民の皆様にご心配をおかけしたと感じております。それ以前から、新型コロナに対する内視鏡検査の対応について医師会の先生から質問を受けることがあり、当院での取り組みをご説明したいと思います。基本は、日本消化器内視鏡学会からの提言やQ&Aをもとに、内視鏡室内での方針や防護服の取り決めを行いました。

ご存知のように、熊本地域医療センターでも救急患者から感染したと思われる職員が出て、一時診療がストップする事態となり医師会会員の先生方はもとより多くの市民の皆様にご心配をおかけしたと感じております。それ以前から、新型コロナに対する内視鏡検査の対応について医師会の先生から質問を受けることがあり、当院での取り組みをご説明したいと思います。基本は、日本消化器内視鏡学会からの提言やQ&Aをもとに、内視鏡室内での方針や防護服の取り決めを行いました。

- (1) 換気とマスク（感染予防）：内視鏡室の窓は開けっ放し、マスクは食べる時以外は装着しています。
- (2) 消毒（手指、室内）：検査や処置のたびに手洗いや手指のアルコール消毒を徹底しており、検査台も患者毎に拭きあげています。

- (3) 短時間、最少人数で（3密防止）：人手がかかる処置もできるだけ短時間かつ最少人数で行なうように心がけています。

また、新型コロナウイルス感染症のリスク分類のための問診票を新たに作成し、PCR陽性や感冒症状がある方は「高リスク患者」とし、それ以外は「低リスク患者」とし、防護対策も2分しました。但し、防護ガウンやマスクなどの院内在庫状況は厳しいものがあり、必要な患者に必要なと思われる防護をしております。新型コロナウイルス感染症に対しても、自分らでできる対応は最大限行なっていこうと考えております。今後も、熊本地域医療センターおよび内視鏡室を何卒よろしくお願いいたします。



<防護対策>

低リスク患者	高リスク患者
<ul style="list-style-type: none">・サージカルマスク・ヘアキャップ・ゴーグルまたはフェイスシールド・使い捨てガウン・グローブ	<ul style="list-style-type: none">・N95マスク・ヘアキャップ・ゴーグルまたはフェイスシールド・耐水性ロングガウン・2重グローブ

熊本地域医療センター勉強会中止のお知らせ

6月予定しておりました勉強会は、新型コロナウイルスの影響により中止いたします。

また、7月以降の開催も未定となっております。今後の状況を見ながら、当熊本地域医療センターだよりや医師会週報にて随時お知らせいたします。



大腸がんの腹腔鏡手術

外科部長 富安 真二郎

2月8日（土）、熊本地域医療センター新館6階にて「血便が出たらどうする?」「大腸の病気について正しく知ろう」と題して市民公開講座が開催されました。私の担当は「大腸がんの腹腔鏡手術」でした。

熊本市医師会に後援頂き、前回在任時に発表した「肝臓癌の治療－外科治療を中心に－」以来4年ぶりに講演する機会を頂きありがとうございました。また、100名を超えるたくさんのご出席を賜り、ありがとうございました。

講演では、血便の場合は大腸か肛門に病気が見られることが多く、その中で最も重要な大腸がんに関して説明を行いました。皆さんご存じのように大腸がんは食事の欧米化や高齢化により増加傾向にあります。がん罹患患者数では男性1位、女性2位、全体

でも1位となっています。がん死亡者数では男性3位、女性1位、全体では2位です。大腸がんを疑った場合の検査、診断された場合の進行度・治療に関して概説しました。

当センターでは年間60-80例程度の大腸がん手術があり、それらの約9割は腹腔鏡手術を行っています。そのため、腹腔鏡手術に関して説明を行い、実際の手技、腹腔鏡下S状結腸切除、腹腔鏡下マイルズ手術の手術ビデオを供覧して頂きました。

最後にまとめとして、大腸がん手術は腹腔鏡手術が普及しており、早期に発見して治療すれば、治癒する可能性も高く、早期発見・早期治療が望ましいが、予防も大切であることをお話ししました。

出席された方々や医師会の先生の何かの役に立てば幸いです。これからも熊本地域医療センターの「大腸がん治療・腹腔鏡手術」をよろしくお願い申し上げます。

新任医師のご挨拶



消化器内科
ささき ひろたか
佐々木 大亮

4月より消化器内科に赴任しました、医師4年目の佐々木大亮と申します。久留米大学卒業後、済生会熊本病院で2年間研修し、昨年熊本大学病院消化器内科に入局しまして、今年度からこちらで後期レジデントとしてお世話になることになりました。

今までは上級医と患者さんを受け持つことがほとんどだったので、自分の診療に責任をもって方針を決めていくことの大変さをひしひしと感じています。

まだまだ消化器内科医としてできる手

技は少ないですが、地域医療センターは通常の内視鏡検査や、ERCP、EUSなどの件数も多く、できるだけ早くこれらの手技を身に着けて、皆様のお役に立てるように頑張ります。

八代市、八代高校出身で、趣味は旅行、NBA観戦、ジョギングなどです。

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何事にも全力で取り組ませていただきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任医師のご挨拶



消化器内科
たけの ひろし
竹野 洋司

令和2年4月1日より消化器内科に勤務することになりました竹野洋司と申します。出身は熊本市で、平成29年に福岡大学を卒業し、熊本中央病院での2年間の初期臨床研修を終えた後、熊本大学病院を経て、この度、熊本地域医療センターに赴任することとなりました。

消化器内科医としては2年目であり、まだまだ専門分野としては経験が浅く、外来業務など初めて経験することが多々あります。また、地域医療センターは内

視鏡検査、特に ERCP や EUS などの検査が多く、忙しいと聞いています。忙しさにパニックにならないように気を引き締め、出来ることから一つずつ研鑽を積んでいければと思います。そして、一日でも早く、熊本の地域医療に貢献出来まようように頑張りたいと存じます。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

ありがとう！ジューシー熊本果実連

総合診療部長 笹原 誉之



厄介な COVID-19 の影響により当院2回目の診療制限下にあった5月13日水曜日の昼、とてもうれしい支援がありました。

熊本県果実農業協同組合連合会から『医療従事者へ感謝、ジューシーで応援プロジェクト』で『熊本県産果実・野菜を活用した飲料』5種類

(みかんストレート・ポンカン100・くまもとの晩柑しほり・収穫野菜 15種類の野菜と果実・収穫野菜 フルーツと青野菜) 2520本、総重量約500kgです。ジューシーのスタッフ数人で直接トラックから搬入もしていただきました。すぐさま各部署に配分され、職員に配布されました。

病院売店がいち早く臨時休業し、入院中の患者さんはもとより病院職員・外来通院治療中の患者さん

や付き添いのご家族まで病院内の全員が大変な不便を強いられていました。「売店が閉まっている上に飲み物の自動販売機も売り切れが多く困っていた。すっごく助かる!」「飲んだら元気がわいてきた!」「とても美味しかった!!」等々、久しぶりにスタッフの笑顔を見ることができました。

病院スタッフだけでなくその家族も風評被害などでつらい思いをし、ストレスがたまっています。ネガティブな気分になりがちで「病院から笑顔が減ってしまった」と感じていました。今回の出来事は「まだまだ大勢の方々が我々を応援してくださっている」ことを思い出させてくれました。笑顔と元気の詰まったご支援に病院を代表して報告と謝意の投稿でした。



熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら ☎096-363-3311 (代表)
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら (平日9:00~17:00)
- ※ベテラン看護師が対応いたします! ☎096-372-0600
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室) ☎096-366-1323

編集後記

Y ⇒ コロナ禍の中ではありますが、北野伸浩先生に Relay トーク (第5弾) を書いていただきました。ありがとうございます。状況が変化することでの発行となりますが、田村文雄先生の記事のように対策を講じながらも、現状を「新たな日常」として捉え、診療が再開することを祈念しております。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

K ⇒ 新型コロナウイルス職員発症により、売店が臨時休業…「ナルカフェ」の日替わり弁当が好評です。院内の移動販売、電話受注への配達と対応されて、職員の胃袋を満たしていただいています。ポイントもたまり、うれしい限りです。ありがとうございます! (^^)!

H ⇒ JA 熊本果実連の皆様、5種類の飲み物のご支援ありがとうございます!! また、ナルカフェの方々も院内へのお弁当販売ご苦労様です。おいしい飲み物とお弁当のおかげで職員の笑顔が増えました。